（第３種郵便物認可）　日本

エコフィードに脚光

愛知県豊川市 環境テクシス 食品端材で畜産用飼料

高品質 ブランド豚育つ

【愛知・ひまわり】豊川市白鳥町にある㈲環境テクシスは食品残さなどを利用した飼料である「エコフィード」を製造している。長引く飼料コスト高騰の対策や飼料自給率の向上、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の取り組みとして注目が高まっている。

回収された生パン粉を確認する高橋社長

同市には食品の製造企業が多く、生パン粉やバウムクーヘン生地、野菜くずなど多くの食料廃棄物が出る。

食料廃棄物といっても食べ残しではなく、製造過程で発生する端材や、規格外品などがほとんど。同社では回収する原料に合わせ異なった処理を行い、畜産用飼料「エコフィード」に変えている。

畜産業で使用される配合飼料は海外情勢などの影響で価格の高騰が続いているが、エコフィードの原料価格は安定しており、飼料コストの軽減につながる。原料に合わせた処理と調合によって、質の高い飼料となり、食欲の落ちる夏でもよく食べられ、収量が減らないのも特徴だ。

同社では、高品質なエコフィードの研究・実証のために、自社養豚場「リンネファーム」を設立。そこで、エコフィード100％で育てたブランド豚「雪乃醸（ゆきのじょう）」を販売している。

２００８年からエコフィードの取り組みを始めた同社の高橋慶社長は「全国各地を自ら回り、畜産関係者とのネットワークを構築してきた。今後もエコフィードの利用を促進し、環境に配慮した畜産を広めていきたい」と話す。

今冬には「雪乃醸」の販売を行う路面店を市内に初出店する予定。

2023.8.10 日本農業新聞